

家の離れた所にも連帯感がありました。この子どもたちの子が今の子どもたちですが、ずーと見てみると、自立する年代がどんどん遅れてきていますね。

最近、私の知っている22才の子が見習いの看護師に就職した。まだ臨時雇いのため、自分で保険や税金を払わないといけなかったんです。その子は「どないしたらいいんやろ」と言っていました。よく考えると私たちの世代では自分が14、5才の時にすでに教えられていた事なんです。今は7、8年後でないと自覚できなくなっています。問題は、そこの7、8年の中身の部分に大人側は何を残したんやろうかということ。ただ単に口で少子高齢化と言いながら、正面から子どもを見ていたのかなぁと思います。見ていなかったからこそ、今、何か問題が起きた時に「学校はどんな教育をしてるねん」、「家庭は何をやってるねん」と言われる。しかし、逆に「あなたの地域は何をやっているのですか」と言われた時には、地域は何もやっていない。昔は地域の恐いおっちゃんがいて、「こらっ！何してるねん！」と叱ってくれたし、親は先生に「安心して教育してください！」と言っていたのに、最近では順位が逆になってきている部分があります。それが、子どもの自立を遅れさせている原因であると思います。ほんとに今、地域が立ち上がらないといけない。コミュニケーションは地域がもっともっと作っていかなあかんとしますね。

福田委員 周囲の大人が辛抱をするという事ができてないと思います。子どもは言ってもすぐにやらないから、つい親がやってしまう。そうすると、子どもは自分でやる力が育たない。本当は、子どもが自分でやる状況を設定してあげるのがよい。お腹が空いたら自分で作るとか。子どもは本来、やる能力を持っていますから、ちょっとしたきっかけを大人が作ってやればよいのです。

○子どもを信頼すること

藤原委員 学校の先生も地域から言われ、家庭からも言われ……。でもそれは違うやろと思います。なかなか学校に行きたがらない子どもでも、父親と母親がじっくりと話し合う事で子どもは安心して学校に行けるといえることがあります。親子や家庭とはそういうものだろうと思います。

山本委員 親は子どもを信頼しているようで、していない。

藤原委員 そうですね。だから子どもの方も、「父さん母さんには言わんといて。」になる。

西島校長 親子の間にも『間合い』というものがある。その間合いが親子でとれていない。もしかすると、夫婦の間でもとれていないのではないかと思います。その失敗した間合いを見た子どもたちは、学校で友達や教員との間合いが分からない。そして、コミュニケーションをとる事が難しくなる。大人が子どもとの距離感を上手にはかってやらないと、子どもは社会でも巢立っていきにくくなり、不登校や引きこもってしまう子がでてきて、外に出にくい子がでてくると思っています。

藤原委員 ちょっとした事で子どもは自信を持って、他の子にも影響を与える。勉強がそんなにできるわけではないけれども、生活の中で友達に自分の存在感を発揮できる。そういう子どもの力を発揮してあげて、その子どもの力を借りて子どもの教育をしていくという事が、今一番欠けている部分でしょうね。やはり何かをして、『自分の力でやってくれる地域づくり』、これがやはり、求められている事だと思つづく思います。

山本委員 そういう考え方をどのようにして広めていくか。親にボランティアの人が一週間位ついて、アドバイスをするという事も必要なのかなぁ…。

木下委員 親が子どもに設定してあげるとするのは大事だなぁと思いました。親が辛抱して、子どもに導いてあげるのは、子どもの将来にとって視野が広がるために良い事だと感じました。

山本委員 子どもの考えている事がわかるようになるからね。この子は何ができるのかというのが分からないと、子どもの事はわからないし、信頼もできない。ところで木下さん、閉課程に向けて、保護者の立場からして、何か伝えたい事はありますか？

木下委員 家の中でも外でも、自分から前進していく気持ちが育ってくれたら。それだけです。

山本委員 定時制の課題等についての他のご意見はないですか？

西島校長 定時制というのはいろんな年代の人がいました。60代の人や社会で働いている30代40代、そして10代の子も。この異なる年代の人たちが共に学んでいるというのは、同じ生徒ではあるのだけれども、人生の先輩として色んな事を語ってくれたり、面倒見てくれたりとすごくいい効果があり、一方、勉強につまずくと年下の者が上の者に勉強を教えたりという良さは他の何ものにも代えがなかった。今の在校生24名は同年代だけになってしまった事はとても残念ですね。

藤原委員 これからの定時制の子どもたちに何が発信できるかという、定時制の子どもたちはいろんな課題を抱えながら勉強するからこそ全日とは違ういいものを持っています。その力が地域の後輩たちに絶対に必要なやという事はぜひ伝えていきたい。…というか、伝えてほしいですね。

福田委員 おそらく定時制に通う生徒はいろんな理由があっただと思いますが、自分らしく自己実現をはかる場や社会がない。定時制というのは、その一つの場所です。だから、ゆっくりでいいからしっかり大きくなれる場所としての学校であったのが、そういう意味では無くなっていくのは寂しい。社会に定時制の学校に代わる場所になるものが欲しいですね。

山本委員 それはむしろ、今の若者みんなに言えるのではないだろうか。「若者が社会的弱者だ」という議論がありますが、若者がしっかりと大人になるための青少年の居場所を考えるための発信がいるのではないのでしょうか。

北口委員 年齢の差の助け合いが定時制の本当の姿です。自分でできる事を見つけて、喜びを持ってやってほしい。今の中学校の1年生の生徒に対しては、すぐにこっちの方でやってしまおうと思ってしまうかもしれませんが、そうではなくて、忍耐強くやっていく事が大事やと思いました。

山本委員 そろそろ時間ですね。本日は、ご意見ありがとうございました。

(吹田高校校長室にて、平成19年7月9日収録)

<参考資料>

1 学校協議会の歴代委員（敬称略）

氏 名	職 名	H14	H16	H17	H18	H19	備考
山 本 冬 彦	関西大学文学部教授	○	○	○	○	○	備考 座長
道 脇 恒 子	保護者会会長	○					
村 井 健二郎	吹田商工会議所調査役	○					
柿 本 全 真	吹田市進路指導協議会事務局長	○					
池 谷 綱 記	シティライフ編集長	○					
岩 田 勝	吹田市教育センター参事	○	○				
岡 田 憲 明	保護者会会長		○				
藤 原 修 身	きしべ人権協会会長		○	○	○	○	
北 口 真	吹田市進路指導協議会事務局長		○	○	○	○	
木 下 真知子	保護者会会長			○	○	○	
福 田 年 宏	吹田市教委青少年相談員			○	○	○	

2 学校協議会の開催記録

年度	回	開催日	主な協議内容
平成 14	1	平成15年1月23日	学校協議会設置の趣旨、学校の現状と課題
	2	平成15年2月6日	学校紹介、本校に求められる定時制教育と学校の特色づくり
16	1	平成16年7月22日	学校の取組紹介、地域・保護者・中学校等が本校に求めるもの
	2	平成16年12月16日	学校教育自己診断集計結果、本定時制の課題
	3	平成17年2月25日	進路指導、授業改善、子育て支援等
17	1	平成17年7月12日	学校の取組紹介、生徒の育成と地域連携
	2	平成17年11月29日	保護者のための進路応援セミナー（保護者会との共催）
	3	平成18年2月21日	座談会「学校と地域社会のつながり等」
18	1	平成18年7月12日	学校の取組紹介、生徒の育成と地域連携
	2	平成19年2月26日	学校教育自己診断、生徒の育成と地域連携
19	1	平成19年7月9日	今までの活動の整理、座談会「青少年を育てる地域社会とは？」
	2	平成20年1月26日	定時制教育の総括